

令和6年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

(1) 東京都立八王子特別支援学校 学校運営連絡協議会 (全日制課程)

(2) 事務局の構成 主幹教諭(教務主任) 1名

(3) 内部委員の構成

校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭(教務主任) 計4名

(4) 協議委員の構成

大井 靖 (竹早教員保育士養成所 学生部長)

前沢 生恵 (東京都立八王子特別支援学校 PTA会長)

山内ゆきみ (社会福祉法人武蔵野会 すぎな愛育園 園長)

増子 拓真 (TASUC株式会社 TRYFULL 教室 最高財務責任者)

櫻田ひかり (八王子市福祉部 障害者福祉課長)

志村 亮介 (八王子市教育委員会 学校教育部 統括指導主事)

小池 明子 (八王子市子ども家庭部子ども家庭支援センター 館長)

長谷部建司 (八王子市台町丁目 自治会長)

松丸 渉 (八王子市立第七小学校 校長)

大熊 一正 (八王子市立第六中学校 校長)

計10名

2 令和6年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会の開催日時、出席者、内容

第1回 令和6年6月12日(水) 10時00分から11時30分まで

出席者 協議委員10名 内部委員4名

内容 ①校長挨拶 ②委員自己紹介 ③令和6年度学校経営計画について
④本校の教育活動について(授業見学) ⑤意見交換

第2回 令和6年10月15日(火) 10時00分から11時30分まで

出席者 協議委員10名 内部委員4名 特別支援教育コーディネーター1名

内容 ①校長挨拶 ②本校のセンター的機能について
③学校評価アンケートについて ④意見交換

第3回 令和7年2月18日(火) 10時00分から11時30分まで

出席者 協議委員9名 内部委員4名

内容 ①校長挨拶 ②学校経営報告 ③本校の教育活動について(授業見学)
④学校評価アンケートについて ⑤意見交換 ⑥提言

(2) 評価委員会の開催日時、出席者、内容

第1回 令和6年6月12日(水) 12時00分から12時30分まで

出席者 評価委員2名 内部委員3名

内容 ①学校評価の内容について ②学校評価の予定について ③意見交換

第2回 令和6年10月15日(火) 9時30分から9時55分まで

出席者 評価委員2名 内部委員3名

内容 ①学校評価アンケート(案)の検討について
②学校評価アンケートの調査手順について ③意見交換

- 第3回** 令和7年2月18日（火）9時30分から9時55分まで
 出席者 評価委員2名 内部委員3名
 内容 ①学校経営報告について ②学校評価アンケートの集計結果について
 ③意見交換

3 学校運営連絡協議会による学校評価

(1) 学校評価の観点

学校が、校長の学校経営計画に基づき、組織として良好に円滑に運営されているか検証・改善を図るために実施した。学校評価に基づき、学校の組織的な活動の現状と課題について明らかにし、継続的な学校経営の改善を実現するとともに、次年度の学校経営計画の策定に生かしていく。

(2) アンケート調査の実施時期・対象・実施方法

アンケート実施対象	アンケート実施時期	回答方法	回答者数	回答率
児童・生徒	令和6年11月27日 ～12月20日	オンラインアンケートフォーム	118名	100%
児童・生徒保護者	令和6年11月27日 ～12月20日	オンラインアンケートフォーム	107名	90.6%
教員	令和6年11月27日 ～12月20日	オンラインアンケートフォーム	49名	100%

(3) 主な評価項目

- ・令和4年度からの3年間は、学校評価アンケートの実施対象や実施時期、回答方法、質問内容を変えずに、3年間の数値の経年変化が読み取れるようにした。
- ・児童・生徒を対象としたアンケートは、授業や学校生活に関わる質問を設定した。
- ・保護者を対象としたアンケートでは、指導内容や教職員の専門性、児童・生徒の成長に関わる質問を設定した。
- ・教員を対象としたアンケートでは、学校経営計画をもとに、授業改善や教員としての専門性、学校運営に関わる質問を設定した。

(4) 評価結果の概要

①児童・生徒アンケートについて

- ・児童・生徒の中には、アンケートフォームの回答を送信したものの、未回答の項目がある児童・生徒もいた。
- ・「学校に通うのは楽しいですか。」という質問に対して、ほとんどの児童・生徒が「はい」と回答し、3名の児童が「いいえ」と回答した。「いいえ」と回答した児童3名のうちの1名については、日頃から自分の気持ちと反対の回答をすることがある児童であり、学校を休むことなく楽しそうに活動していることから、学校に楽しく通うことができていると考えられる。他の2名の児童については、アンケートの回答を送信した時間が、学校での活動時間外であることから、GIGA 端末の誤操作であると考えられる。

- ・「先生は、困ったときに相談にのってくれますか。」という質問に対して、1名の児童が「いいえ」と回答した。この1名については質問の意味が分からずに回答したことが考えられ、担任との関係も良好であることから、本当に困ったときには担任などの教員に相談することができると考えられる。
- ・児童・生徒は、音楽や体育（保健体育）、図画工作（美術）などの授業を楽しみにしていることや、休み時間や給食の時間を楽しみにしていることが分かった。

②保護者アンケートについて

- ・「お子様は楽しんで学校に通っていると思いますか。」という質問に対して、98%を超える肯定的な回答をいただいた。
- ・「お子様は教員からの専門的な指導や支援が受けられていると思いますか。」という質問に対して、97%を超える肯定的な回答をいただいた。
- ・「教職員は、児童・生徒の人権を尊重していると思いますか。」という質問に対して、98%を超える肯定的な回答をいただいた。
- ・「本校は、取組や教育内容について、十分に情報発信をしていると思いますか。」という質問に対して、「そう思う」、「ややそう思う」という肯定的な回答が、全体の93%を超えているものの、各質問の中で、「ややそう思う」という回答の割合が一番多かった。
- ・「教職員は、児童・生徒の実態に合わせたキャリア教育に関する指導を行っていると思いますか。」という質問に対して、「そう思う」、「ややそう思う」という肯定的な回答が、全体のほぼ87%で、各質問の中で「そう思う」、「ややそう思う」という肯定的な回答の割合が一番低かった。
- ・「教職員は、児童・生徒に対して、お子様のモデルになるような、ふさわしい言葉遣いや身だしなみ、電話対応を行っていると思いますか。」という質問に対して、98%を超える肯定的な回答をいただいた。

③教員アンケートについて

- ・日々の授業を振り返り、授業改善を行う意欲・態度に関する5つの質問に対して、「ほぼ達成」、「おおむね達成」という回答が90%を超えていることから、授業作りや授業改善に意欲的に取り組んでいることがうかがえた。
- ・研修・研究活動による授業の充実と専門性の向上に関する2つの質問に対して、「ほぼ達成」、「おおむね達成」という回答が、90%を超えていることから、研修・研究活動についても、意欲的に取り組んでいることがうかがえた。
- ・学校運営・組織体制に関する5つの質問に対して、「ほぼ達成」、「おおむね達成」という回答が、90%を超えていることから、より良い学校運営への意識は高いことがうかがえた。

(5) 評価結果の考察

①児童・生徒アンケートについて

- ・児童・生徒はおおむね学校生活を楽しんでいて、教員との信頼関係も良好であると思われた。
- ・未回答の項目があることから、児童・生徒が回答しやすいアンケートを作成する必要がある。
- ・学校評価アンケートは、児童・生徒が自分の気持ちを表現する活動の一つとして、より良い活動にしていきたい。

②保護者アンケートについて

- ・ 3年間の回答率や回答内容に大きな変化は見られず、安定して高い満足度を得られていることを読み取ることができた。
- ・ 指導内容や教員の専門性、児童・生徒の成長などに関するすべての質問について、「そう思う」、「ややそう思う」という肯定的な回答がほとんどで、おおむね満足していると思われた。
- ・ 教員の専門的な指導に関する質問については、3年間で少しずつ肯定的な回答の割合が向上していることから、教員の専門性が向上していることや、指導のねらいや手立てについて保護者と共有できてきていることが読み取れた。
- ・ 学校からの情報発信に関する質問では、学校ホームページを充実させてほしいという意見があった。ホームページの充実と合わせて、ホームページ以外での情報発信についても検討する。

③教員アンケートについて

- ・ 教員は、学校経営計画の実現に向け、研究活動などをおして自己研さんに励み、意欲的に授業改善を行っていることを読み取ることができた。
- ・ 今後、研修会で扱ってほしい内容や、より良い研究活動の進め方に関する内容など、前向きな回答が見られた。
- ・ 学校経営計画を効果的に達成させるための提案として、ハンコレスやペーパーレスなど、より効率的に業務を進めるための具体策などが挙げられ、働き方改革の推進に関わる回答が見られた。

4 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営

- ・ 引き続き、校内の組織力を高め、児童・生徒が「わかって動く 考えて動く 責任を果たす」力を身に付けられるよう、教員だけでなく児童・生徒に関わる職員一人一人の専門性の向上を目指す。
- ・ 教職員倫理要綱や倫理要綱に基づく行動指針のスタンスを踏まえ、児童・生徒を個人として尊重し、生活年齢に応じた関わり方や指導、支援の方法等について共通理解を図る。

(2) 学習指導

- ・ 児童・生徒一人一人の障害の程度、能力、特性等、実態を的確に把握し、外部専門家と連携し、学校全体で、個に応じた指導の充実を図る。
- ・ ICT機器を取り入れ、デジタル技術を活用した分かりやすい授業を進める。

(3) 特別活動

- ・ 小学部から中学部までの系統性のある行事計画をたてていき、児童・生徒の主体的に考え、学び、行動する力を育成する。
- ・ 自己選択・自己決定する機会を積極的に設け、自分の行動に責任をもたせる指導を行う。

(4) 生活指導

- ・ 児童・生徒が安心・安全な学校生活を送るために必要な学校の環境整備を進める。
- ・ 挨拶、身だしなみなどの基本的な生活習慣を確立し、ADLの向上と生活年齢を踏まえた規範意識の醸成を図る。

(5) 進路指導

- ・「高等部卒業後の生活・生き方」を念頭においた、各段階で身に付けておくべき力について学年で検討する。
- ・進路指導だよりや研修を通して都や地域の動き、キャリア教育について等、保護者に情報を発信する。

(6) 健康・安全

- ・学校保健安全計画に基づく個別・集団に向けた保健管理・保健教育の充実を図る。

5 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 10名

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
10						

6 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

- ・なし

7 その他

- ・なし